

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第4736458号
(P4736458)

(45) 発行日 平成23年7月27日 (2011.7.27)

(24) 登録日 平成23年5月13日 (2011.5.13)

(51) Int.Cl.

F I

G 0 6 Q 10/00 (2006.01)

G 0 6 F 17/60 1 6 2 C

請求項の数 9 (全 19 頁)

(21) 出願番号 特願2005-40813 (P2005-40813)
 (22) 出願日 平成17年2月17日 (2005.2.17)
 (65) 公開番号 特開2006-227909 (P2006-227909A)
 (43) 公開日 平成18年8月31日 (2006.8.31)
 審査請求日 平成20年1月17日 (2008.1.17)

(73) 特許権者 000005496
 富士ゼロックス株式会社
 東京都港区赤坂九丁目7番3号
 (74) 代理人 100098084
 弁理士 川▲崎▼ 研二
 (72) 発明者 光武 克也
 神奈川県足柄上郡中井町境430 グリー
 ンテクなかい 富士ゼロックス株式会社内
 (72) 発明者 吉村 浩一
 神奈川県足柄上郡中井町境430 グリー
 ンテクなかい 富士ゼロックス株式会社内
 審査官 貝塚 涼

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 稟議書発行装置、稟議書回覧システム、稟議書発行方法およびプログラム

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

原稿を識別する識別情報ごとに、順序を割り当てられた複数の回付先と、当該回付先における回付の状況をそれぞれ示すデータとを対応付けてテーブルに記憶する記憶手段と、

原稿を表す第1画像データに、当該原稿を識別する識別情報を表す第2画像データと自己のネットワークアドレスを表す第3画像データとを付加して稟議書として印刷する印刷手段と、

前記複数の回付先のいずれかにおいて読み取られた前記稟議書を表す第4画像データのうち、当該第4画像データに含まれる前記第3画像データから特定された前記自己のネットワークアドレスにより自己へ送信された当該第4画像データを受信する受信手段と、

前記受信手段が受信した第4画像データに含まれる前記第2画像データに基づいて、前記原稿を識別する識別情報を取得する取得手段と、

前記取得手段で取得された識別情報ごとに、当該識別情報を表す前記第2画像データを含む前記第4画像データが前記受信手段により受信された回数を特定する特定手段と、

前記テーブルにおいて、前記特定手段が特定した前記回数の値と同じ値の順序を割り当てられた回付先の前記回付の状況を示すデータを、回付済みを示すデータに更新する更新手段と

を具備することを特徴とする稟議書発行装置。

【請求項2】

前記記憶手段内のテーブルの内容を表示する表示手段

10

20

を具備することを特徴とする請求項 1 に記載の稟議書発行装置。

【請求項 3】

前記表示手段は、前記受信手段が画像データを受信した時の時刻を認識する時刻認識手段を具備し、前記記憶手段内のテーブルの内容を表示する際、前記時刻認識手段が記憶している時刻を該テーブルに関連づけて表示する

ことを特徴とする請求項 2 に記載の稟議書発行装置。

【請求項 4】

稟議書の画像を読み取り、前記稟議書の画像データを生成する読取手段と、

前記読取手段が読み取った画像からネットワークアドレスの画像を識別して、前記ネットワークアドレスを認識するネットワークアドレス認識手段と、

前記読取手段が生成した前記稟議書の画像データを前記ネットワークアドレス認識手段が認識したネットワークアドレスに送信する送信手段と、

請求項 1 乃至 3 いずれかに記載の稟議書発行装置と

を具備することを特徴とする稟議書回覧システム。

【請求項 5】

前記テーブルを受信する受信装置を具備し、

前記稟議書発行装置は、

前記受信装置のネットワークアドレスを記憶するアドレス記憶手段と、

前記記憶手段に記憶された前記テーブルを前記アドレス記憶手段に記憶されているネットワークアドレスに転送する転送手段と

を具備することを特徴とする請求項 4 に記載の稟議書回覧システム。

【請求項 6】

前記稟議書発行装置と別に、前記稟議書の画像データを受信する受信装置を具備し、

前記印刷手段は、前記自己のネットワークアドレスに加えて、前記受信装置のネットワークアドレスを画像化し、前記画像データに付加する

ことを特徴とする請求項 4 に記載の稟議書回覧システム。

【請求項 7】

前記受信装置を複数具備する

ことを特徴とする請求項 6 に記載の稟議書回覧システム。

【請求項 8】

ネットワークに接続される端末装置である稟議書発行装置が、

原稿を識別する識別情報ごとに、順序を割り当てられた複数の回付先と、当該回付先における回付の状況をそれぞれ示すデータとを対応付けてテーブルに記憶する記憶ステップと、

原稿を表す第 1 画像データに、当該原稿を識別する識別情報を表す第 2 画像データと自己のネットワークアドレスを表す第 3 画像データとを付加して稟議書として印刷する印刷ステップと、

前記複数の回付先のいずれかにおいて読み取られた前記稟議書を表す第 4 画像データのうち、当該第 4 画像データに含まれる前記第 3 画像データから特定された前記自己のネットワークアドレスにより送信された当該第 4 画像データを受信する受信ステップと、

前記受信ステップにおいて受信された第 4 画像データに含まれる前記第 2 画像データに基づいて、前記原稿を識別する識別情報を取得する取得ステップと、

前記取得ステップにおいて取得された識別情報ごとに、当該識別情報を表す前記第 2 画像データを含む前記第 4 画像データが前記受信ステップにおいて受信された回数を特定する特定ステップと、

前記テーブルにおいて、前記特定ステップにおいて特定された前記回数の値と同じ値の順序を割り当てられた回付先の前記回付の状況を示すデータを、回付済みを示すデータに更新する更新ステップと

を実行することを特徴とする稟議書発行方法。

【請求項 9】

コンピュータを

原稿を識別する識別情報ごとに、順序を割り当てられた複数の回付先と、当該回付先における回付の状況をそれぞれ示すデータとを対応付けてテーブルに記憶する記憶手段と、

原稿を表す第1画像データに、当該原稿を識別する識別情報を表す第2画像データと自己のネットワークアドレスを表す第3画像データとを付加して稟議書として印刷する印刷手段と、

前記複数の回付先のいずれかにおいて読み取られた前記稟議書を表す第4画像データのうち、当該第4画像データに含まれる前記第3画像データから特定された前記自己のネットワークアドレスにより送信された当該第4画像データを受信する受信手段と、

前記受信手段が受信した第4画像データに含まれる前記第2画像データに基づいて、前記原稿を識別する識別情報を取得する取得手段と、

前記取得手段で取得された識別情報ごとに、当該識別情報を表す前記第2画像データを含む前記第4画像データが前記受信手段により受信された回数を特定する特定手段と、

前記テーブルにおいて、前記特定手段が特定した前記回数の値と同じ値の順序を割り当てられた回付先の前記回付の状況を示すデータを、回付済みを示すデータに更新する更新手段

として機能させるためのプログラム。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、決裁権限者に稟議書を回付し順次決裁を得る場合においてコンピュータネットワークを介して、稟議の進捗を確認する装置、システム、方法及びプログラムに関する。

【背景技術】

【0002】

会社等の組織において、社員が自分の権限で決定できない事項について上司や組織の上層部の承認を求める場合、稟議書を作成し決裁を得ることが行われている。稟議書は例えば予算や企画に関するものである。起案者は稟議書に予算や企画等についての必要事項を書き込み稟議書を回付する。決裁者は稟議書が回付されると、稟議書の内容を確認し、承認であれば承認欄に捺印をする。起案者はその承認欄を見ることで、どの決裁者まで稟議書が回付されたのかを確認することができる。しかし、決裁者によっては、捺印個所に稟議書内容のコメントを記載したり、他の決裁者の捺印欄に誤って捺印をしてしまうという混乱が起こっていた。また、決裁者によっては非承認ということもあり、承認欄を見ただけでは、どの決裁者まで回付されたのかを把握することが困難であった。

【0003】

そこで、特許文献1、2にはファクシミリによって稟議書を回付するシステムが開示されている。このシステムによれば、稟議書を順次回付する際、転送元を識別するマーク、あるいはファクシミリ番号を転送先のファクシミリにおいて印字を行うようになっている。これにより、承認欄を見なくても、印字されたマーク、及びファクシミリ番号を見ることでどの決裁権限者まで回付されたかを把握することができる。

【0004】

しかしながら、特許文献1、2においてはファクシミリで送られてきた稟議書を次の決裁権限者に送るとき、再度ファクシミリで送信するため、回付される回を重ねるごとに稟議書の印刷文字が劣化するという問題があった。そこで、特許文献3、4にはネットワークに接続されたコンピュータの表示画面上で決裁を進めるシステムが開示されている。これによれば、稟議結果を記憶したデータをネットワークを介してコンピュータのモニタに表示できるようになっている。そのため、稟議書の劣化の問題がなく、また起案者はそのモニタ上のデータを見ることで、稟議の進捗を把握することができる。

【特許文献1】特開平5-145669号公報

【特許文献2】特開2001-103264号公報

10

20

30

40

50

【特許文献3】特開2003-303276号公報

【特許文献4】特開平8-265361号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

しかしながら、モニタ上の表示は紙に比べ一覧性に欠けるため、例えば決裁者が書き込んだコメントなど小さな文字は読めないという問題があった。またコンピュータなどの機器の操作に不慣れな利用者には、コンピュータの操作に手間がかかり、稟議書の進捗管理を効率よく行えない問題があった。

【0006】

本発明はこのような背景に鑑みてなされたものであり、それぞれの決裁権限者に稟議書の原本を回付し、起案者はその回付状況をオンラインで確認でき、起案者、及び決裁権限者の手間を軽減し決裁を進めることができる技術を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0007】

上記課題を解決するため、本発明は、原稿を識別する識別情報ごとに、順序を割り当てられた複数の回付先と、当該回付先における回付の状況をそれぞれ示すデータとを対応付けてテーブルに記憶する記憶手段と、原稿を表す第1画像データに、当該原稿を識別する識別情報を表す第2画像データと自己のネットワークアドレスを表す第3画像データとを付加して稟議書として印刷する印刷手段と、前記複数の回付先のいずれかにおいて読み取られた前記稟議書を表す第4画像データのうち、当該第4画像データに含まれる前記第3画像データから特定された前記自己のネットワークアドレスにより自己へ送信された当該第4画像データを受信する受信手段と、前記受信手段が受信した第4画像データに含まれる前記第2画像データに基づいて、前記原稿を識別する識別情報を取得する取得手段と、前記取得手段で取得された識別情報ごとに、当該識別情報を表す前記第2画像データを含む前記第4画像データが前記受信手段により受信された回数を特定する特定手段と、前記テーブルにおいて、前記特定手段が特定した前記回数の値と同じ値の順序を割り当てられた回付先の前記回付の状況を示すデータを、回付済みを示すデータに更新する更新手段とを具備することを特徴とする稟議書発行装置を提供する。

【0008】

本発明に係る稟議書発行装置によれば、稟議書を印刷する際、印刷手段は自己のネットワークアドレスと、稟議書識別コードを付加する。そしてその稟議書識別コードに関連付けて記憶手段によって稟議書の回付状況を把握するテーブルを作成する。テーブルは、「回付順」、「回付先」、「回付状況」がそれぞれ関連づけられたレコードによって構成されており、そのうち、「回付順」、「回付先」は起案者によって入力される。なお「回付先」は1から始まる通し番号で入力される。起案者によって稟議書が回付され、その回付先から決済が行われた稟議書の画像データがネットワークを介して送信されると、認識手段によって、その画像データの稟議書識別コードを認識する。そして認識した稟議書識別コードと同じ稟議書識別コードのデータをテーブルから読み出し、その稟議書識別コードの稟議書の画像データを受信した回数と同じ値の「回付順」のレコードの「回付状況」に回付済みであることを示す回付済みデータを書き込んでいく。

【0009】

また本発明は、前記記憶手段内のテーブルの内容を表示する表示手段を具備することを特徴とする稟議書発行装置を提供する。

【0010】

この稟議書発行装置によれば、表示手段は回付済みデータが書き込まれたテーブルを表示する。

【0011】

本発明の好ましい態様においては、前記表示手段は、前記受信手段が画像データを受信した時の時刻を認識する時刻認識手段を具備し、前記記憶手段内のテーブルの内容を表示

10

20

30

40

50

する際、前記時刻認識手段が記憶している時刻を該テーブルに関連づけて表示する。このようにすれば起案者は稟議書の回付状況のより詳しい情報を知ることができる。

【0016】

また、本発明は、稟議書の画像を読み取り、前記稟議書の画像データを生成する読取手段と、前記読取手段が読み取った画像からネットワークアドレスの画像を識別して、前記ネットワークアドレスを認識するネットワークアドレス認識手段と、前記読取手段が生成した前記稟議書の画像データを前記ネットワークアドレス認識手段が認識したネットワークアドレスに送信する送信手段と、前記稟議書発行装置とを具備することを特徴とする稟議書回覧システムを提供する。

【0017】

この稟議書回覧システムによれば、稟議書発行装置から送信された稟議書の画像データに付加してあるネットワークアドレスを読み取り、その読み取ったネットワークアドレス宛に画像データを送信する。このようにすれば、稟議書の画像データに付加したネットワークアドレスを元にネットワークを介して稟議書の画像データの送受信ができる。

また、この稟議書回覧システムは、前記テーブルを受信する受信装置を具備し、前記稟議書発行装置は、前記受信装置のネットワークアドレスを記憶するアドレス記憶手段と、前記記憶手段に記憶された前記テーブルを前記アドレス記憶手段に記憶されているネットワークアドレスに転送する転送手段とを具備するようにしてもよい。

また、この稟議書回覧システムは、前記稟議書発行装置と別に、前記稟議書の画像データを受信する受信装置を具備し、前記印刷手段は、前記自己のネットワークアドレスに加えて、前記受信装置のネットワークアドレスを画像化し、前記画像データに付加するようにしてもよい。この場合、前記受信装置を複数具備するようにしてもよい。

【0018】

また、本発明は、ネットワークに接続される端末装置である稟議書発行装置が、原稿を識別する識別情報ごとに、順序を割り当てられた複数の回付先と、当該回付先における回付の状況をそれぞれ示すデータとを対応付けてテーブルに記憶する記憶ステップと、原稿を表す第1画像データに、当該原稿を識別する識別情報を表す第2画像データと自己のネットワークアドレスを表す第3画像データとを付加して稟議書として印刷する印刷ステップと、前記複数の回付先のいずれかにおいて読み取られた前記稟議書を表す第4画像データのうち、当該第4画像データに含まれる前記第3画像データから特定された前記自己のネットワークアドレスにより送信された当該第4画像データを受信する受信ステップと、前記受信ステップにおいて受信された第4画像データに含まれる前記第2画像データに基づいて、前記原稿を識別する識別情報を取得する取得ステップと、前記取得ステップにおいて取得された識別情報ごとに、当該識別情報を表す前記第2画像データを含む前記第4画像データが前記受信ステップにおいて受信された回数を特定する特定ステップと、前記テーブルにおいて、前記特定ステップにおいて特定された前記回数の値と同じ値の順序を割り当てられた回付先の前記回付の状況を示すデータを、回付済みを示すデータに更新する更新ステップとを実行する稟議書発行方法を提供する。

【0020】

また、本発明は、コンピュータを原稿を識別する識別情報ごとに、順序を割り当てられた複数の回付先と、当該回付先における回付の状況をそれぞれ示すデータとを対応付けてテーブルに記憶する記憶手段と、原稿を表す第1画像データに、当該原稿を識別する識別情報を表す第2画像データと自己のネットワークアドレスを表す第3画像データとを付加して稟議書として印刷する印刷手段と、前記複数の回付先のいずれかにおいて読み取られた前記稟議書を表す第4画像データのうち、当該第4画像データに含まれる前記第3画像データから特定された前記自己のネットワークアドレスにより送信された当該第4画像データを受信する受信手段と、前記受信手段が受信した第4画像データに含まれる前記第2画像データに基づいて、前記原稿を識別する識別情報を取得する取得手段と、前記取得手段で取得された識別情報ごとに、当該識別情報を表す前記第2画像データを含む前記第4画像データが前記受信手段により受信された回数を特定する特定手段と、前記テーブルに

において、前記特定手段が特定した前記回数の値と同じ値の順序を割り当てられた回付先の前記回付の状況を示すデータを、回付済みを示すデータに更新する更新手段として機能させるためのプログラムを提供する。

【発明を実施するための最良の形態】

【0022】

以下、本発明の第1実施形態について説明する。

[構成]

図1は、本発明の第1実施形態に関わる稟議進捗管理システム1の全体構成を示した図である。LAN(Local Area Network)100は例えば企業に設置された通信ネットワークであり、このLAN100には、企業内の各部署に設けてある複合機200A~200D、そして複合機10が接続されている。なお、このシステムにおいて、LAN100には多数の複合機が接続されるが、図面が煩雑になるのを防ぐため図1においては、複合機200A~200Dのみを図示している。

10

【0023】

次に、複合機10、複合機200A~200Dの構成について説明するが、これらの複合機は同じ構成であるため、複合機10を代表にして説明する。本実施形態における複合機10は、例えばカラープリンターやカラー複写機、或いはこれらの複数の機能を兼ね備えた複合機である。図2に示すように、複合機10は画像形成ユニット20、画像読取りユニット30、原稿送り装置31、給紙トレイ22、排紙トレイ24を具備している。原稿読取りユニット30は原稿送り装置31によって搬送された原稿を読み取る。そして読み取った画像を表す画像データを画像形成ユニット20が形成する。このとき、複合機10は給紙トレイ22に格納してある用紙を図示せぬ搬送経路によって搬送し、その用紙上に画像形成ユニット20が画像形成を行うようにする。そして画像形成した用紙を排紙トレイ24に排紙する。

20

【0024】

図3は複合機10の制御系の構成を表すブロック図である。制御部12は例えばMPU(Micro Processor Unit)や各種の特定用途向けのASIC(Application Specific Integrated Circuit)を備えている。通信部40はLAN100を介して通信を行うためのインターフェースとして機能し、複合機10は、通信部40を介してパーソナルコンピュータやサーバマシン、複合機200A~200Dなどのホスト装置から送信されてくる画像データを受信する。そして画像データに基づいて画像形成処理を行う。

30

【0025】

記憶部50は、例えばハードディスク装置などの大容量記憶装置であり、制御プログラム52、稟議書管理テーブルTB2を記憶している。制御プログラム52には制御部12を制御するためのプログラムが記憶されている。

【0026】

稟議書管理テーブルTB2のフォーマットを図4に例示した。図4に示すように、稟議書管理テーブルTB2には、「ファイル名」、「回付順」、「部署名」、「回付状況」の各フィールドが設けられている。「ファイル名」のフィールドには、稟議書のファイル名が格納され、「回付順」フィールドには稟議書を回付する順番が格納される。そして「部署名」フィールドには、稟議書の承認/否認を行う決裁者の所属部署の名前が格納され、「回付状況」フィールドには、決裁者に回付されたかどうかを示す回付状況が格納される。「回付状況」のデータが「1」の場合、回付済みであることを示し、「0」の場合、まだ回付されていないことを示す。「回付状況」の「0」から「1」へのデータ更新は、制御部12が行い、データ更新の方法は、画像データの受信回数の値と同じ値をもつ「回付順」のレコードの「回付状況」を「0」から「1」にする。つまり、例えば、ringi001というファイル名の稟議書が回付され、その画像データを複合機10が受信すると、ringi001の画像データを受信したのが初回であれば、「回付順」が「1」であるレコードの「回付状況」の値を「0」から「1」にする。2回目以降も同じように行う。

40

50

【 0 0 2 7 】

また、複合機 1 0 は画像記憶部 5 4 を有している。画像記憶部 5 4 は画像読取りユニット 3 0 が受信した画像や読み取った画像を記憶する。

【 0 0 2 8 】

また、複合機 1 0 は操作部 7 0 を有している。操作部 7 0 は、液晶表示パネル 7 4 と、制御部 1 2 の制御の下に液晶表示パネル 7 4 に対し各種表示制御を行う液晶ドライバ 7 8 を有している。また、液晶表示パネル 7 4 の表面には透明のタッチパネル 7 6 が設けられており、操作者によってタッチされると、タッチパネル制御部 7 2 がその位置座標を検出して制御部 1 2 に送る。制御部 1 2 においては、例えば、各種ボタンなどを液晶表示パネル 7 4 に表示させるが、どの位置にどのようなボタンを表示したかを把握しているから、その状態においてタッチパネル制御部 7 2 からタッチされた場所の位置座標が送られると、それらの相互の関係からどのボタンが押されているかを把握するようになっている。

10

【 0 0 2 9 】

[動作例]

次に、本発明の第 1 実施形態の動作について図面を参照して説明する。なお、以下の説明において、複合機 1 0 の使用者を稟議書の起案者とし、複合機 2 0 0 A の使用者を 1 番目の決裁者、複合機 2 0 0 B の使用者を 2 番目の決裁者、複合機 2 0 0 C の使用者を 3 番目の決裁者、複合機 2 0 0 D の使用者を 4 番目の決裁者として稟議書を回付する場合を想定して動作の説明を行う。

【 0 0 3 0 】

< 稟議書の回付開始 >

図 5 に複合機 1 0 の制御部 1 2 が行う処理を示した。まず、起案者は稟議書を原稿送り装置 3 1 に設置し、タッチパネル 7 6 を操作する。制御部 1 2 は起案者の操作に基づいて液晶パネル 7 4 に図 6 に示す稟議書メニュー 6 2 を表示する（ステップ S A 2 ）。図 6 に示すように、稟議書メニュー 6 2 には「稟議開始」ボタン B T 1 0、「回付状況照会」ボタン B T 2 0、そして「起案者宛送付」ボタン B T 3 0 がある。起案者により「稟議開始」ボタン B T 1 0 がタッチされると（ステップ S A 4 ； Y E S ）、制御部 1 2 には液晶パネル 7 4 に図 7 のような部署名一覧テーブル T B 3 と「回付開始」ボタン B T 1 2 を表示する（ステップ S A 6 ）。部署名一覧テーブル T B 3 は「部署名一覧」フィールドと、「回付順」フィールドからなっている。「部署名一覧」の欄に表示されているいずれかの部署名が起案者によってタッチされると、制御部 1 2 はタッチされる順番に「回付順」フィールドに 1 から始まる通し番号を表示する。図 7 においては、総務部が最初にタッチされたため、総務部の「回付順」フィールドには「1」が表示され、次に法務部がタッチされたので法務部の「回付順」フィールドには「2」が表示されている。そして 3 番目にタッチされた経理部の「回付順」フィールドには「3」が、4 番目にタッチされた事業部の「回付順」フィールドには「4」が各々表示されている。

20

30

【 0 0 3 1 】

そして「回付開始」ボタン B T 1 2 がタッチされると（ステップ S A 8 ； Y E S ）、制御部 1 2 は部署名一覧テーブル T B 3 をもとに図 4 (a) に示す稟議書管理テーブル T B 2 を作成する（ S A 1 0 ）。具体的には、稟議書管理テーブル T B 2 の「ファイル名」のセルに稟議書のファイル名を格納する。本実施形態においては、ファイル名は制御部 1 2 が自動設定する。ここでは、「 r i n g i 0 0 1 」というファイル名が生成されている。「回付順」に、1 から始まる通し番号を格納する。そして、回付順が「1」である行の部署名のセルに部署名一覧テーブル T B 3 において回付順が「1」であった「総務部」を格納する。同じように、回付順が「2」である行の部署名のセルに部署名一覧テーブル T B 3 において回付順が「2」であった「法務部」を格納し、回付順が「3」である行の部署名のセルには部署名一覧テーブル T B 3 において回付順が「3」であった「経理部」を格納し、回付順が「4」である行の部署名のセルには部署名一覧テーブル T B 3 において回付順が「4」であった「事業部」を格納する。また、制御部 1 2 は回付状況フィールドに格納されている回付状況データの値を全て「0」にする。

40

50

【 0 0 3 2 】

その後制御部 1 2 は起案者が原稿送り装置 3 1 に載置した原稿を画像読取りユニット 3 0 によって読み取り、稟議書の原稿を画像データにする（ステップ S A 1 2）。このとき、稟議書の画像データに、複合機 1 0 のネットワークアドレスと、稟議書のファイル名を付加する（ステップ S A 1 4）。通常ネットワークアドレスとファイル名は数値、及び文字であるため、ステップ S A 1 4 においてはネットワークアドレスとファイル名をラスタ画像にエンコードして稟議書の画像データに付加する。ネットワークアドレスとファイル名を付加した稟議書 R 1 を図 8 に示す。本実施形態においては、ネットワークアドレスとファイル名はバーコードにエンコードされる。図 8 に示したように稟議書 R 1 の右上には複合機 1 0 のネットワークアドレスとファイル名をそれぞれエンコードしたバーコード 3 4、バーコード 3 6 が付加されている。なお、本実施形態では、バーコード 3 4、バーコード 3 6 は右上に付加するようにしたが、右上に限るものではなく、稟議書の内容に影響を及ぼさない場所であるならば、どの場所に付加するようにしてもよい。このようにして画像形成が行われた稟議書 R 1 を起案者は第 1 決裁者に回付する。

10

【 0 0 3 3 】

なお、起案者が次々に稟議書を作成し、それぞれの稟議書において上記のような複合機 1 0 の操作を行うと、複合機 1 0 は図 4 (b) に示すように、それぞれの稟議書に対してファイル名を自動生成し、稟議書管理テーブル T B 2 を作成する。

【 0 0 3 4 】

< 第 1 決裁者に回付 >

20

第 1 決裁者は稟議書 R 1 を受け取ると、稟議の内容を確認し、稟議書 R 1 の決裁欄に捺印をする。そして第 1 決裁者は複合機 1 0 に稟議書 R 1 の画像データを送信するために、複合機 2 0 0 A の画像読取りユニット 3 0 に稟議書 R 1 を載置し、複合機 2 0 0 A を操作する。

【 0 0 3 5 】

その時の制御部 1 2 の具体的な動作を図 5 を用いて説明する。まず、制御部 1 2 は第 1 決裁者の操作により稟議書メニュー 6 2 を液晶パネル 7 4 に表示する（ステップ S A 2）。ここで液晶パネル 7 4 に表示する稟議書メニュー 6 2 は前述のように図 6 に示す画面である。第 1 決裁者が原稿読取りユニット 3 0 に稟議書 R 1 を載置し、「起案者宛送付」ボタン B T 3 0 をタッチすると（ステップ S A 4；NO、ステップ S A 2 0；YES）、制御部 1 2 は稟議書 R 1 を読み取り、画像データにする（ステップ S A 2 2）。次に読み取った画像データのうち、稟議書 R 1 の右上に印字されていたバーコード 3 4 をデコードし、稟議書 R 1 の送付先を特定する。このバーコード 3 4 は複合機 1 0 において複合機 1 0 のネットワークアドレスがエンコードされたものなので、制御部 1 2 はバーコード 3 4 のデコードにより、複合機 1 0 のネットワークアドレスを得る（ステップ S A 2 4）。そして、複合機 1 0 のネットワークアドレスに稟議書 R 1 の画像データを送信する（ステップ S A 2 6）。

30

【 0 0 3 6 】

複合機 1 0 が複合機 2 0 0 A から稟議書 R 1 の画像データを受信したときの動作を図 1 0 に示す。制御部 1 2 は稟議書 R 1 の画像データを記憶部 5 0 の画像記憶部 5 4 に格納する（ステップ S B 2）。次に稟議書 R 1 の右上に印字されたバーコード 3 6 をデコードし、稟議書 R 1 のファイル名を特定する（ステップ S B 4）。ここでは、稟議書 R 1 のファイル名は「ringi001」である。次に記憶部 5 0 からファイル名がringi001である稟議書管理テーブル T B 2 を読み出し（ステップ S B 6）、稟議書管理テーブル T B 2 の第 1 承認者の回付状況のセルの値を図 1 1 に示すように「1」にする（ステップ S B 8）。

40

【 0 0 3 7 】

ここで起案者によって稟議書の回付状況が閲覧された場合を図 5 を用いて説明する。制御部 1 2 は起案者の操作に従って稟議書メニュー 6 2 を液晶パネル 7 4 に表示する（ステップ S A 2）。そして起案者により、「回付状況照会」ボタン B T 2 0 がタッチされると

50

(ステップS A 4 ; N O ステップS A 2 0 ; N O ステップS A 2 8 ; Y E S)、制御部 1 2 は記憶部 5 0 から稟議書管理テーブルT B 2を読み出す(ステップS A 2 9)。そして、図 1 2 に示す回付状況照会メニュー 6 4 を液晶パネル 7 4 に表示する(ステップS A 3 0)。回付状況照会メニュー 6 4 は稟議書管理テーブルT B 2 と、「全稟議書印刷」ボタンB T 2 2、「まとめて1枚に印刷」ボタンB T 2 4 とから構成されている。この場合、第1承認者の回付状況のみが1になっているので、稟議書は第1承認者まで回付されたことがわかる。このように起案者は稟議書管理テーブルT B 2を閲覧することによって、稟議書がどこまで回付されているかを把握することができる。そして、起案者が「全稟議書印刷」ボタンB T 2 2をタッチすると(ステップS A 3 2 ; Y E S)と、制御部 1 2 はその時点までに複合機 2 0 0 A ~ 2 0 0 D から送付された画像データを画像記憶部 5 4 から読み出す(ステップS A 3 4)。そして読み出した稟議書の画像データを元に画像形成ユニット 2 0 において画像形成を行う。この場合、送付された稟議書は第1決裁者が使用する複合機 2 0 0 A から送付された稟議書 R 1 のみなので、複合機 1 0 は複合機 2 0 0 A から送付された稟議書のみの画像形成を用紙に行い、その用紙を排紙トレイ 2 4 に出力する(ステップS A 3 6)。この時出力される用紙を図 9 に示す。

【 0 0 3 8 】

< 第2決裁者に回付 >

第1決裁者は複合機 A を操作し稟議書 R 1 の画像データを複合機 1 0 に送信した後、稟議書 R 1 を第2決裁者に回付する。第2決裁者は稟議書 R 1 を受け取ると、稟議の内容を確認し、稟議書 R 1 の決裁欄に捺印する。第2起案者は捺印をすると、複合機 1 0 に稟議書 R 1 の画像データを送信するために、複合機 2 0 0 B の画像読取りユニット 3 0 に稟議書 R 1 を載置し、複合機 2 0 0 B を操作する。複合機 2 0 0 B は複合機 2 0 0 A と同様に前述の図 5 のステップS A 2 0 ~ S A 2 6 を行い、複合機 1 0 に稟議書 R 1 を送信する。つまり、第2決裁者の操作により、制御部 1 2 は稟議書メニュー 6 2 を液晶パネル 7 4 に表示する(ステップS A 2)。 「起案者宛送付」ボタンB T 3 0 が第2決裁者によってタッチされると(ステップS A 4 ; N O、ステップS A 2 0 ; Y E S)、制御部 1 2 は画像読取りユニット 3 0 に載置された稟議書 R 1 を読取り、稟議書 R 1 の画像データを生成する(ステップS A 2 2)。次に制御部 1 2 は稟議書 R 1 の右上に印字されていたバーコード 3 4 を読み取り、複合機 1 0 のネットワークアドレスを認識し(ステップS A 2 4)、そのネットワークアドレスに稟議書 R 1 の画像データを送信する(ステップS A 2 6)。

【 0 0 3 9 】

複合機 1 0 は複合機 2 0 0 B から稟議書 R 1 の画像データを受信すると、前述した図 1 0 の動作を行う。つまり、制御部 1 2 は稟議書 R 1 の画像データを画像記憶部 5 4 に格納する(ステップS B 2)。次に稟議書 R 1 の右上に印字されたバーコード 3 6 をデコードし、稟議書 R 1 のファイル名が r i n g i 0 0 1 であることを特定し(ステップS B 4)、次に記憶部 5 0 からファイル名が r i n g i 0 0 1 である稟議書管理テーブルT B 2を読み出す(ステップS B 6)。そして稟議書管理テーブルT B 2 の第2承認者の回付状況のセルの値を図 1 1 に示すように「1」にする(ステップS B 8)。

【 0 0 4 0 】

ここで起案者が稟議書メニュー 6 2 で「回付状況照会」ボタンB T 2 0 をタッチすると(ステップS A 2 ステップS A 4 ; N O ステップS A 2 0 ; N O ステップS A 2 8)、制御部 1 2 は図 1 4 に示す回付状況照会メニュー 6 4 を液晶パネル 7 4 に表示する(ステップS A 2 9 ステップS A 3 0)。この場合、第1承認者と、第2承認者の回付状況が1になっているので、稟議書は第2承認者まで回付されたことがわかる。そして、起案者によって「全稟議書印刷」ボタンB T 2 2 がタッチされると(ステップS A 3 2 ; Y E S)、制御部 1 2 は、複合機 2 0 0 A と複合機 2 0 0 B から送付された稟議書のデータを読み出し(ステップS A 3 4)、その稟議書データを元に画像形成ユニット 2 0 において画像形成を行う。そして、画像形成を行った用紙を排紙トレイ 2 4 に出力する(ステップS A 3 2)。この時出力される用紙を図 1 3 に示す。

【 0 0 4 1 】

10

20

30

40

50

また、起案者によって「まとめて1枚に印刷」ボタンB T 2 4がタッチされた場合（ステップS A 3 2；N O ステップS A 3 8；Y E S）、制御部1 2はその時点までに送付された稟議書の画像データを画像記憶部5 4から読み出し（ステップS A 4 0）、図1 5に示すように1枚の用紙に画像形成を行い用紙に出力する（ステップS A 4 2）。このとき、制御部1 2は用紙の左から右に向かって稟議書の画像データを受信した順に画像形成を行う。つまり、一番左には、複合機2 0 0 Aから送信された稟議書の画像データを、2番目には複合機2 0 0 Bから送信された稟議書の画像データの画像形成を行う。

【0 0 4 2】

第2決裁者は複合機2 0 0 Bを操作し複合機1 0に稟議書R 1の画像データを送信した後、稟議書R 1を第3決裁者に回付する。第3決裁者は稟議書R 1を受け取ると、決裁を行った後、第1、第2決裁者と同じように、決裁を行った稟議書を複合機2 0 0 Cの画像読取りユニット3 0に載置し、複合機2 0 0 Cを操作する。複合機2 0 0 Cは複合機2 0 0 A、2 0 0 Bが行った前述の図5のステップS A 2 ステップS A 4；N O ステップS A 2 0；Y E S ステップS A 2 2～S A 2 6を行い、複合機1 0に第3決裁者が決裁を行った稟議書データを送信する。

10

【0 0 4 3】

複合機1 0は複合機2 0 0 Cから第3決裁者が決裁を行った稟議書の画像データを受信すると、前述した図1 0の動作を行う。つまり、制御部1 2は複合機2 0 0 Cから送信された稟議書の画像データを画像記憶部5 4に格納する（ステップS B 2）。次に稟議書R 1の右上に印字されたバーコード3 6をデコードし、稟議書R 1のファイル名がr i n g i 0 0 1であることを特定する（ステップS B 4）。次に記憶部5 0からファイル名がr i n g i 0 0 1である稟議書管理テーブルT B 2を読み出し（ステップS B 6）、稟議書管理テーブルT B 2の第3承認者の回付状況のセルの値を図1 1に示すように「1」にする（ステップS B 8）。

20

【0 0 4 4】

その後第3決裁者は稟議書を第4決裁者に回付する。第4決裁者は稟議書を受け取ると、決裁を行った後、第1、第2、及び第3決裁者と同じように、決裁を行った稟議書を複合機2 0 0 Dの画像読取りユニット3 0に載置し、複合機2 0 0 Dを操作する。複合機2 0 0 Dは図5のステップS A 2 ステップS A 4；N O ステップS A 2 0；Y E S ステップS A 2 2～S A 2 6を行い、複合機1 0に第4決裁者が決裁を行った稟議書データを送信する。

30

【0 0 4 5】

複合機1 0は複合機2 0 0 Dから第4決裁者が決裁を行った稟議書の画像データを受信すると、稟議書の画像データを画像記憶部5 4に格納する（ステップS B 2）。次に稟議書R 1の右上に印字されたバーコード3 6をデコードし、稟議書R 1のファイル名がr i n g i 0 0 1であることを特定する（ステップS B 4）。次に記憶部5 0からファイル名がr i n g i 0 0 1である稟議書管理テーブルT B 2を読み出し（ステップS B 6）、稟議書管理テーブルT B 2の第4承認者の回付状況のセルの値を図1 1に示すように「1」にする（ステップS B 8）。

40

【0 0 4 6】

ここで、起案者が液晶パネル7 4で稟議書メニュー6 2の「回付状況照会」ボタンB T 2 0をタッチすると、複合機1 0は図1 0に示した回付状況照会メニュー6 4を表示する（図5ステップS A 2 ステップS A 4；N O ステップS A 2 0；N O ステップS A 2 8；Y E S ステップS A 2 9～ステップS A 3 0）。この時、稟議書管理テーブルT B 2の回付状況フィールドの値は、第4決裁者まで回付されたために、全て「1」になっている。

【0 0 4 7】

また、ここで起案者によって「まとめて1枚に印刷」ボタンB T 2 4がタッチされると、複合機1 0は図1 7に示したように読み出した画像の画像形成を1枚の用紙上に行う（ステップS A 3 2；N O ステップS A 3 8；Y E S ステップS A 4 0～ステップS A

50

42)。

【0048】

本実施形態によれば、複合機10はネットワークアドレスをエンコードして画像印刷し、複合機200A～200Dは複合機10によって印刷されたネットワークアドレスを読み取って、複合機10のネットワークアドレスを把握して画像データの送信を行う。これにより、複合機10に稟議書の回付状況の情報が集まる。複合機10はその情報を液晶パネル74に表示するので、起案者は回付されている稟議書そのものの承認欄を見なくても、稟議の進捗状況を把握することができる。また、決裁者においても、送付先のアドレス等の入力をする必要がなく稟議書をスキャンするのみでよいので、コピーをする感覚で容易に起案者の複合機に稟議書の画像データを送付することができる。また、決裁者に稟議書の原本を回付するため、従来とまったく同様の方法で稟議を回付することが出来る。このことは、コンピュータなど、いわゆるIT(Information Technology)機器の操作に不慣れな利用者でも、稟議書の進捗管理に従事できる。また、システムの維持管理や、操作方法の習熟にける手間から解放される。

10

【0049】

[変形例]

なお、稟議書管理テーブルTB2を液晶パネル74に表示する際、複合機200A～200Dのそれぞれから送信された稟議書を受信した日時、時刻等も表示するようにしてもよい。このとき、稟議書を受信した時刻を記憶部50において記憶しておき、稟議書管理テーブルTB2を液晶パネル74に表示するとき、稟議書管理テーブルTB2と共に、記憶しておいた時刻を呼び出すようにすればよい。

20

【0050】

また、図10のステップSB8において稟議書管理テーブルTB2の「回付状況」を「0」から「1」に更新する際、本実施形態においては稟議書の画像データの受信回数を元に更新するセルを特定したが、図18のようなアドレス一覧テーブルを元に更新するセルを特定してもよい。つまり、画像データの送付元のネットワークアドレスとアドレス一覧テーブルTB4から「部署名」を特定し、その「部署名」と同じレコードの「回付状況」を「0」から「1」に更新するようにしてもよい。このとき、アドレス一覧テーブルTB4は記憶部50に格納するものとする。この構成によれば、例えば1番目の決裁者が2番目の決裁者を飛ばして、3番目の決裁者に回付してしまった場合、複合機10が受信する画像データの受信回数は2回であるが、送付元のネットワークアドレスから稟議書が回付されたのは1番目と3番目の決裁者であることがわかる。そのため、起案者は2番目の起案者に稟議書の回付をし直す等のより詳しい進捗管理を行うことができる。

30

【0051】

また、図18においては、画像データの送付元のネットワークアドレスから部署名を特定したが、ネットワークアドレスに限らず、例えばID番号等といった部署を特定する情報(回付先の端末を特定する情報)であればどのような情報でもよい。その場合、図18の「アドレス」フィールドにはそのとき設定した特定情報が格納される。

【0052】

また、稟議書管理テーブルTB2を液晶パネル74に表示することで、起案者が稟議の進捗状況を把握できるようにしたが、稟議書管理テーブルTB2を表示するのではなく、複合機200A～200Dから送信される稟議書の画像データを表示するようにしてもよい。この場合、稟議書管理テーブルTB2の回付状況を見なくとも、稟議書の画像データの中の日付印や決裁印を参照することで、稟議の進捗状況を把握することができる。

40

【0053】

また、複合機200A～Dが稟議書R1の画像データを送信する送信先は複合機10のみであったが、複合機10のみに限らず、例えば起案者が稟議書を作成したパーソナルコンピュータ(起案者PC)にも送信するようにしてもよい。またさらに、稟議書を回付するのが起案者とは別(回付者)である場合は、その回付者が所属する部署に設置してある複合機(回付者複合機)にも稟議書R1の画像データを送信するようにしてもよい。この

50

ときのシステムの全体構成を図 19 に示す。この場合、複合機 10 に記憶部 10a を設け、この記憶部 10a に起案者 PC60、回付者複合機 66 のネットワークアドレスを登録しておく。そして複合機 10 は稟議書 R1 にネットワークアドレスを付加するとき、自己のネットワークアドレスをデコードすると共に、起案者 PC60 と回付者複合機 66 のネットワークアドレスもデコードする。そして、デコードしたそれぞれのネットワークアドレスを付加する。これらのネットワークアドレスが付加された稟議書 R1 は決裁者に回覧された後、決裁者の操作により複合機 200A ~ 200D から画像データとして送信される。その際、複合機 200A ~ 200D は稟議書 R1 に付加されている複合機 10、起案者 PC、そして回付者複合機のネットワークアドレスをエンコードし、それぞれのネットワークアドレスに稟議書 R1 の画像データを送信する。つまり、複合機 10、起案者 PC、そして回付者複合機に画像データを送信する。このようにすることで、稟議の進捗状況を複合機 10 のみでなく、起案者 PC60、回付者複合機 66 においても把握することができる。また、稟議書管理テーブル TB2 の回付状況を見なくとも、稟議書の画像データの中の日付印や決裁印を参照することで、稟議の進捗状況を把握することができる。

【0054】

また、複合機 10 が稟議書管理テーブル TB2 を起案者 PC60、回付者複合機 66 に送信するようにしてもよい。この場合、複合機 10 に記憶部 10b を設け記憶部 10b に起案者 PC60 と回付者複合機 66 のネットワークアドレスを登録しておく。そして複合機 10 は複合機 200A ~ 200D のそれぞれから送信された稟議書 R1 の画像データを元に作成、更新した稟議書管理テーブル TB2 を起案者 PC60、回付者複合機 66 に送信する。送信するタイミングは稟議書管理テーブル TB2 を更新した時であっても良いし、稟議が完了した時点、つまり複合機 200D からの画像データを受信し、その画像データを元に更新した最終的な稟議書管理テーブル TB2 を作成し終わった時でも良い。このようにすれば、複合機 10 が付加するネットワークアドレスは自己のネットワークアドレスのみでよい。また、複合機 10 のみでなく、起案者 PC60、回付者複合機 66 においても稟議書管理テーブル TB2 を参照することができる。

【0055】

次に第 2 実施形態について説明する。第 1 実施形態においては、稟議書管理テーブル TB2 を液晶パネル 74 において表示したが、第 2 実施形態においてはクライアント PC14 の表示部において表示する。それ以外の構成、動作については第 1 実施形態と同様のため説明を省略する。

【0056】

第 2 実施形態に係る稟議進捗管理システム 2 の全体構成を図 20 に示す。LAN (Local Area Network) 100 には、複合機 10'、クライアント PC14 が接続されている。複合機 10' は HTML (Hypertext Markup Language) で記述されたファイル形式のデータ (以下、HTML ファイルという) を記憶しており、この HTML ファイルをクライアント PC14 からのリクエストに応じて送信するようになっている。また、クライアント PC14 は、例えばパーソナルコンピュータ等であり、CPU (Central Processing Unit) や ROM (Read Only Memory)、RAM (Random Access Memory) 等によって構成される制御部と、HDD (Hard Disk Drive) 等の記憶部と、LAN 100 を介して通信を行う通信インターフェース等の機能を具備した通信部と、液晶ディスプレイ装置等の表示部と、キーボードやマウス等の操作部とを備えている。クライアント PC14 の記憶部には WWW ブラウザプログラムが記憶されている。制御部がこの WWW ブラウザプログラムを実行することによって、クライアント PC14 は複合機 10' と LAN を介して HTTP (Hypertext Transfer Protocol) に従った通信を行い、複合機 10' によって送信されてくる HTML ファイルを受信すると、その内容を解釈して各種情報を表示部に表示するようになっている。

【0057】

複合機 10' の構成を図 21 に示す。図 21 に示すように、複合機 10' は記憶部 50 にクライアント PC14 に提供される多数の HTML ファイル群 56 が記憶されている。

HTMLファイル群56に含まれる各々のHTMLファイルはそれぞれハイパーリンクによって階層的に関連づけられており、クライアントPC14のユーザがこれらHTMLファイルのハイパーリンクを一つずつ辿っていくことによって、クライアントPC14は複合機10'からHTMLファイルの一つずつ取得して表示部に表示することが出来るようになっている。また制御プログラム52には、クライアントPC14に稟議書を照会する手順が記述された照会プログラム55が含まれている。

【0058】

図22は、照会プログラムに記述された手順を示すフローチャートである。図22において、複合機10'の制御部12は照会画面を要求するHTTPリクエストを通信部40が受信したことを検知すると(ステップSC2;YES)、これに応じて、照会画面を表示するためのHTMLファイルを記憶部50から読み出す(ステップSC4)。次いで、制御部12は、上記HTMLファイルを含むHTTPレスポンスを生成し、通信部40によって上記HTTPリクエストの送信元のクライアントPC14に送信する(ステップSC6)。次に、制御部12は、照会要求をパラメータとして含むHTTPリクエストを通信部40が受信したことを検知すると(ステップSC8;YES)、画像記憶部54に格納していた稟議書の画像データを上記HTTPリクエストの送信元のクライアントPC14に送信する(ステップSC10)。クライアントPC14は送信された稟議書の画像データを表示する。

【0059】

次に、図23参照しながら、具体的な動作について説明する。図23においてまず、起案者はクライアントPC14の操作部を操作してWWWブラウザプログラムを起動させる。次いで、起案者が複合機10'によって用意されている照会画面のURLを入力或いは選択すると、クライアントPC14は、そのURLを含むHTTPリクエストr1を送信する。

【0060】

複合機10'は、上記HTTPリクエストr1を受信すると、図22に示したステップSB2 SB4 SB6という処理を経て、照会画面を表示するためのHTMLファイルを含むHTTPレスポンスr2をクライアントPC14に送信する。

【0061】

クライアントPC14はHTTPレスポンスr2を受信すると、これに含まれているHTMLファイルの内容を解釈して表示部に照会画面を表示する。この照会画面には稟議書の照会を要求するための照会ボタンが設けられている。起案者によってこの照会ボタンがクリックされると、クライアントPC14は照会要求をパラメータとして含むHTTPリクエストr3を複合機10'に送信する。複合機10'は、このHTTPリクエストr3を受信すると、図22のステップSB8 SB10の処理を行う。複合機10'はHTTPリクエストr4を受信すると、稟議書の画像データを含むHTTPレスポンスr4をクライアントPC14に送信する。

【0062】

本実施形態によれば、起案者は稟議書回付の進捗状況をオンラインで、即座に確認できる。また、画像にて確認できるので、利用者にとってわかりやすい。さらに、各決裁者のコメントなども即座にわかるため、コメントに対する対処を迅速にできる。

【図面の簡単な説明】

【0063】

【図1】本発明の第1実施形態に係るシステムの全体構成を示すブロック図である。

【図2】同実施形態における複合機の斜視図である。

【図3】同実施形態における複合機の構成を示すブロック図である。

【図4】同実施形態における稟議書管理テーブルのフォーマットである。

【図5】同実施形態における複合機が行う処理を示したフローチャートである。

【図6】同実施形態における複合機の操作部に表示する稟議書メニューである。

【図7】同実施形態における記憶部に記憶する部署名一覧テーブルのフォーマットの例で

10

20

30

40

50

ある。

【図 8】同実施形態における稟議書のフォーマットである。

【図 9】同実施形態における第 1 承認者によって決裁が行われた稟議書である。

【図 10】同実施形態における複合機が行う処理を示したフローチャートである。

【図 11】同実施形態における第 1 承認者によって決裁が行われたテーブルに更新をした稟議書である。

【図 12】同実施形態における複合機の操作部に表示する稟議書の回付状況照会メニューである。

【図 13】同実施形態における第 2 承認者まで決裁が行われた稟議書である。

【図 14】同実施形態における複合機の操作部に表示する稟議書の回付状況照会メニューである。 10

【図 15】同実施形態における稟議書の出力例である。

【図 16】同実施形態における複合機の操作部に表示する稟議書の回付状況照会メニューである。

【図 17】同実施形態における稟議書の出力例である。

【図 18】同実施形態におけるアドレス一覧テーブルのフォーマットである。

【図 19】同実施形態の変形例におけるシステムの全体構成を示すブロック図である。

【図 20】本発明の第 2 実施形態に係るシステムの全体構成を示すブロック図である。

【図 21】同実施形態における複合機の構成を示すブロック図である。

【図 22】同実施形態における複合機が行う処理を示したフローチャートである。 20

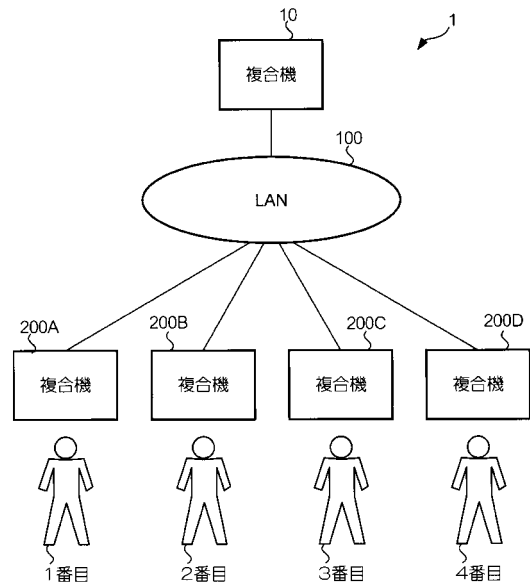
【図 23】同実施形態におけるシステム全体の動作例を示すシーケンス図である。

【符号の説明】

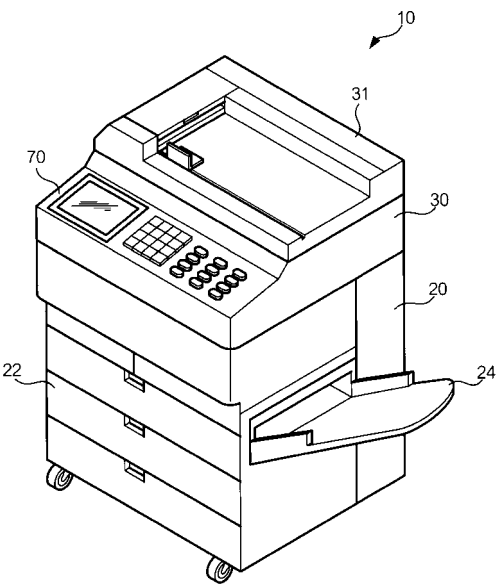
【0064】

1・・・第 1 実施例の稟議書進捗管理システム、2・・・第 2 実施例の稟議書進捗管理システム、10・・・第 1 実施例の複合機（第 1 複合機）、10'・・・第 2 実施例の複合機、12・・・制御部、14・・・クライアント PC、20・・・画像形成ユニット、22・・・給紙トレイ、30・・・画像読取ユニット、34・・・ネットワークアドレス、40・・・通信部、50・・・記憶部、70・・・操作部、72・・・タッチパネル制御部、74・・・液晶パネル、76・・・タッチパネル、78・・・液晶ドライバ、100・・・LAN、200A～200D・・・複合機（第 2 複合機） 30

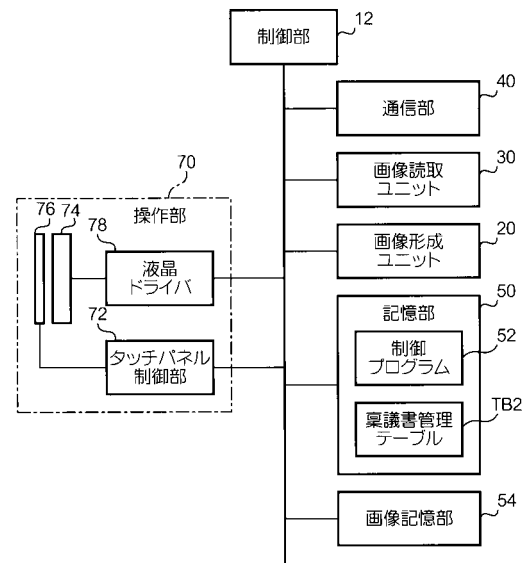
【図 1】



【図 2】



【図 3】



【図 4】

(a)

ファイル名	回付順	部署名	回付状況
ringi001	1	総務部	0
	2	法務部	0
	3	経理部	0
	4	事業部	0

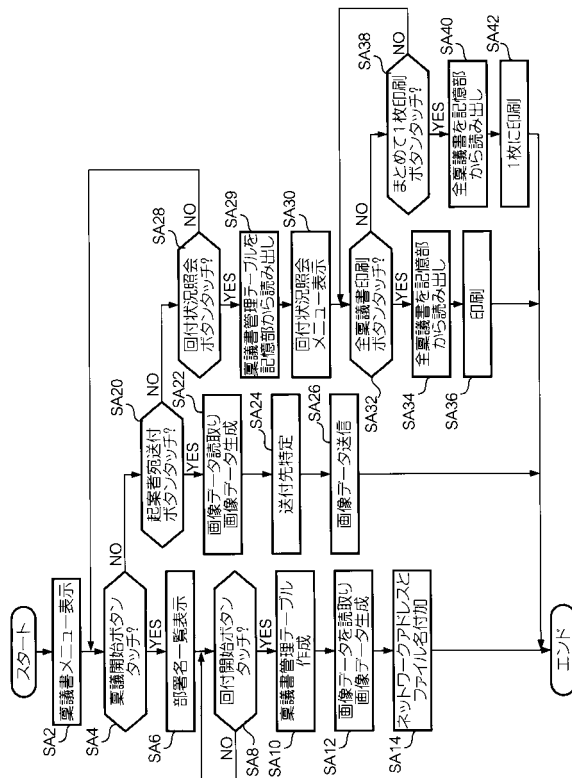
(b)

ファイル名	回付順	部署名	回付状況
ringi002	1	総務部	0
	2	法務部	0
	3	経理部	0

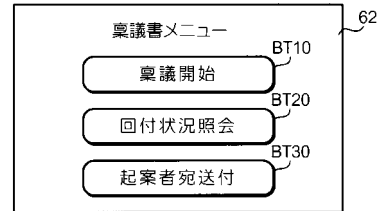
ファイル名	回付順	部署名	回付状況
ringi003	1	営業部	0
	2	法務部	0
	3	経理部	0
	4	総務部	0
	5	事業部	0

ファイル名	回付順	部署名	回付状況
ringi004	1	知材部	0
	2	法務部	0
	3	経理部	0

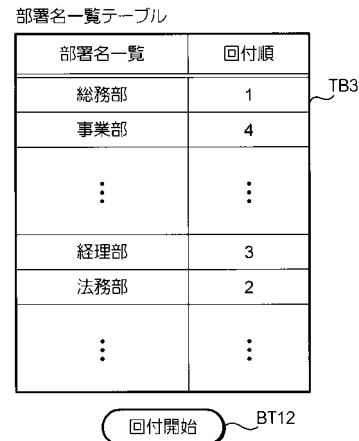
【 図 5 】



【 図 6 】



【圖 7】



【 図 8 】

R1 36 34
6789 2

決裁 以力		社長 副社長 統括部長 部長・室長	件名	取得の件			年 月 日	年 月 日	※ ※
			予備との 関係 □計画 ■実施	■内門外門起 ■内門外門起	起案 者	起案 責任者			
決裁 以力		部長・室長	種類	字種 番号			条件の有無 □有	議決 に ※	※

回付順序 (合議先の 指定)	起案年月日	年	月	日	部門別 起案番号	起案部門	合議者意見記入欄 (朱書き厳禁)
総務 長殿	○○○○				○○○○		
法務 長殿	○○○○				○○○○		
経理 長殿	○○○○				○○○○		
↓ 長殿	○○○○				○○○○		
↓ 長殿	○○○○				○○○○		
↓ 長殿	○○○○				○○○○		
↓ 長殿	○○○○				○○○○		
↓ 長殿	○○○○				○○○○		
↓ 長殿	○○○○				○○○○		

■ 取得申請理由

■ 導入後の効果

(決裁者)


事業部

→ 長殿

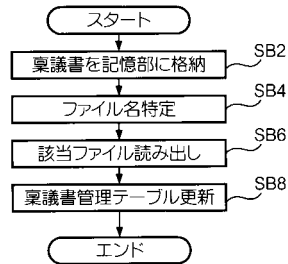
→ 受付戻り

添付 書類										
合議	可・否	可・否	可・否	可・否	可・否	可・否	可・否	可・否	可・否	可・否
決裁	可決	否決	条件の有無 □有(条件内容を記入) □無				要付 ※	議決事項 ※(書記人)	遅達者	

【 図 9 】

R1		36		34					
		 6789 2							
決裁区 分	社長	件名			取得の件			年	※
	副社長								年
	統括部長	予登との関係 <input type="checkbox"/> 内口外口部			起案者	起案責任者	月	日	審判
	部長・室長								
回付順序(合議先の指定) 総務 長殿 ○○○○ 法務 長殿 ○○○○ 経理 長殿 ○○○○ ↓ 長殿 ○○○○ ↓ 長殿 ○○○○ ↓ 長殿 ○○○○ ↓ 長殿 ○○○○ (決裁者) 事業部 長殿 →受付渡し									
起案年月日 年 月 日 部門別起案番号 起案部門 ○○○○ ■ 取得申請理由 合議意見見記入欄(朱書き厳禁) ■ 導入後の効果 進捗率 No.書記入 ※									
添付書類 ① 合議 起案区(67892) 可・否 可・否 可・否 可・否 可・否 可・否 可・否 可・否 可・否 可・否 決裁 可決 否決 条件の有無 <input type="checkbox"/> 有(条件内容を記入) <input type="checkbox"/> 無 要付									

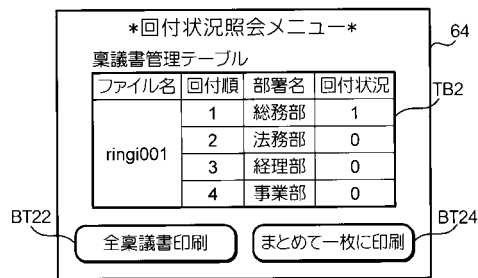
【 図 1 0 】



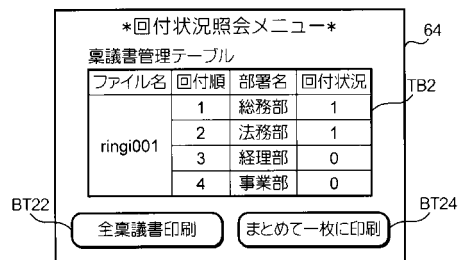
【 図 1 1 】

ファイル名	回付順	部署名	回付状況
ringi001	1	総務部	1
	2	法務部	0
	3	経理部	0
	4	事業部	0

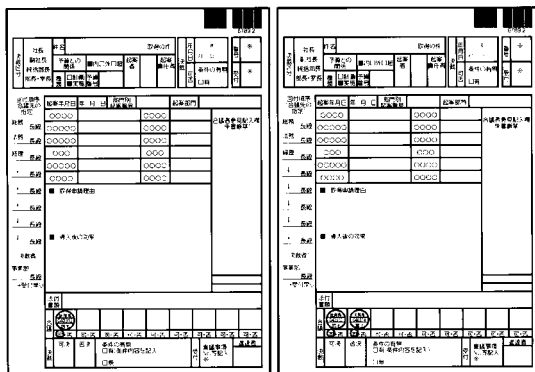
【 図 1 2 】



【 図 1 4 】



【 図 1 5 】



【 図 1 3 】

R1

36

34

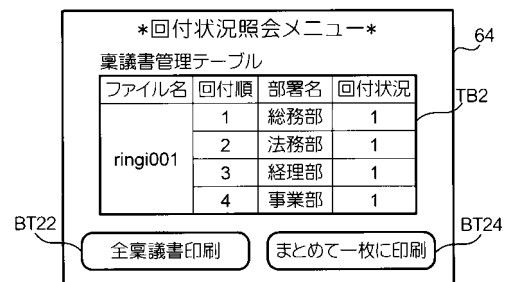
67802

決裁 方式	社長	件名	取得の件			件	年	※
	副社長	予備との関係	■内口外口超	起案者	起案責任者	月	日	印刷
	統括部長	種類	□計画	予備番号		条件の有無		※
	部長・室長	種類	■未読			□有	実行	

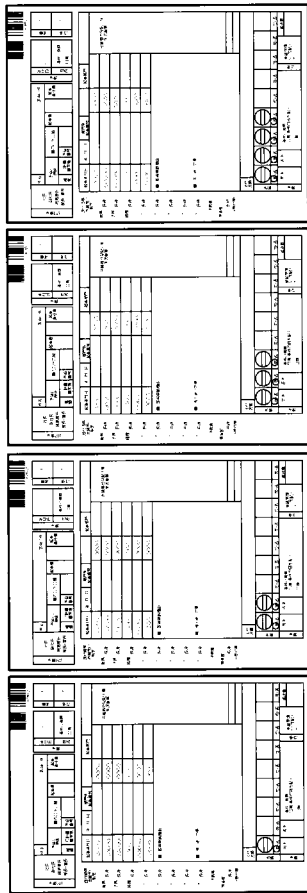
回付順序 (合議先の指定)		起案年月日	年	月	日	類別 起案番号	起案部門	合議者意見記入欄 (朱書き禁止)
総務	長殿	○○○○				○○○○		
	長殿	○○○○○				○○○○		
法務	長殿	○○○○○				○○○○		
	長殿	○○○				○○○		
↓	長殿	○○○○○				○○○○		
↓	長殿	○○○○				○○○○		
↓	長殿	■ 取得申請理由						
↓	長殿	■ 導入後の効果						
(決裁者) 事業部								
長殿 →受付票に								

添付 書類										
合議	総務部長 020342 0203	総務部長 020343 0203								
	可・否	可・否	可・否	可・否	可・否	可・否	可・否	可・否	可・否	可・否
決裁	可決	高決	条件の有無 □有(条件内容を記入) □無					実行 ※	推進者	

【 図 1 6 】



【図 17】



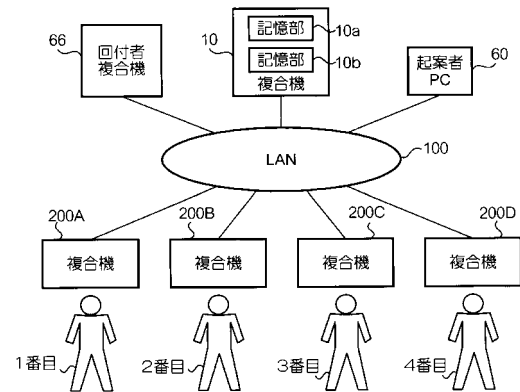
【図 18】

アドレス一覧テーブル

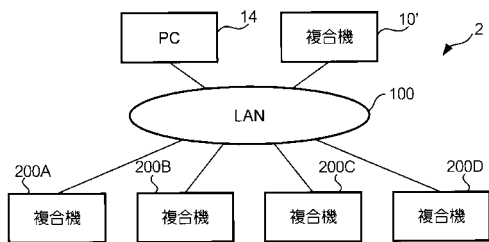
部署名	アドレス
総務部	〇〇〇〇〇〇〇
法務部	〇〇〇〇〇〇〇
⋮	⋮
経理部	〇〇〇〇〇〇〇
⋮	⋮
事業部	〇〇〇〇〇〇〇
⋮	⋮

TB4

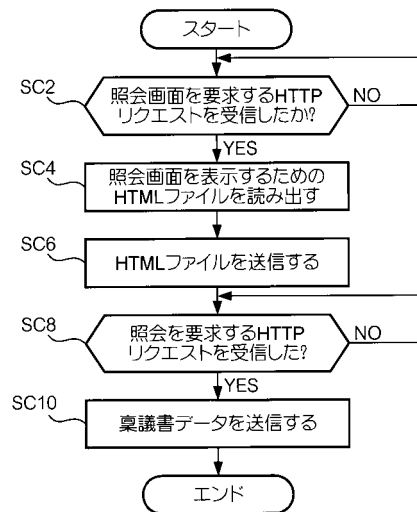
【図 19】



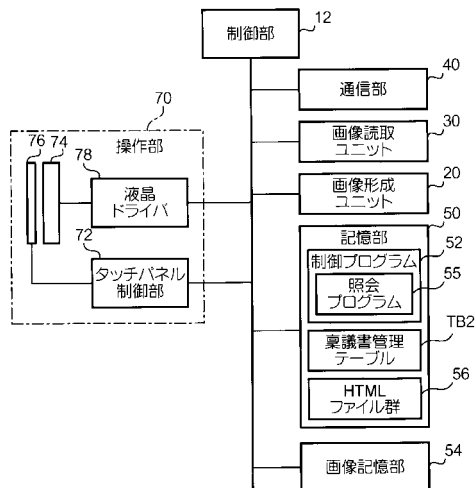
【図 20】



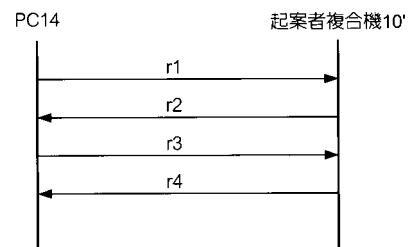
【図 22】



【図 21】



【図 23】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開2005-018603(JP,A)
特開2003-058678(JP,A)
特開2004-054364(JP,A)
特開平05-145669(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
G06Q 10/00-50/00